会　告

IGS 日本支部　2011 年通常総会　議事録（案）

1．日　時：　平成 23 年 2 月 2 日（水）16：00～17：00

2．場　所：　地盤工学会　地下会議室

3．議事資料：2011 年通常総会議題書

4．議事内容

（1）　開会宣言

・　平井幹事長より 2011 年通常総会の開会宣言がなされた。

・　出席者は個人会員 18 名、特別会員代表者 5 名、委任状は個人会員 110 名、特別会員 5 社で総票数 194。全会員票数 318 の 2 分の 1（159）を上回り、通常総会は成立した。

（2）　議長選出及び議長挨拶

・　議長には三木支部長が選出され、承認された。

（3）　2010 年事業報告及び 2011 年事業計画【資料 1】

・　資料に基づき、桑野副支部長より日本支部の現況会員数等について、各委員会より 2010 年活動報告、2011 年活動計画についてそれぞれ説明がなされた。

（4）　2010 年収支決算・2011 年予算(案)（財務委員会）【資料-2】

・　資料に基づき、伊藤会計幹事より 2010 年度決算報告、2011 年度予算(案)について説明がなされ、承認された。

（5）　2010 年監査報告【資料-3】

・　資料に基づき、石川監事より 2010 年一般会計及び特別会計は適正かつ正確であることが報告された。

（6）　2011 年役員の選出【資料-4】

・　資料に基づき 2011 年度役員の再任・新任について説明がなされ、承認された。

（7）　意見

出席者から以下のような意見・要望が出された。

・　本学会を発展させるためには若手が魅力を感じる成果と広報が重要である。

・　新興国の支部が拡大し、世界的にジオシンセティックスが普及している。日本の製品、技術の世界進出に期待したい。

・　日本発信の情報が少ない。日本支部として IGS ニュースの活用、国際会議でのブース出展等について検討してほしい。

（8）　閉会挨拶

・　平井幹事長の閉会挨拶により、2011 年通常総会は閉会した。

以上

＜2010 年度事業報告及び 2011 年度事業計画＞

１．現況会員数（2010 年 12 月 31 日現在）

正会員　２２３名、特別会員　１９社、学生会員　１６名
（２００９年末の会員数：　正会員　２２８名、特別会員　２０社、学生会員　２２名）

２．日本支部の主な活動

１．IGS 会長・理事等選挙対応（メール等会員情報の整備）
２．IGS 理事会への出席（敬称略）
2010 年 5 月 23 日，27～29 日
ブラジル、Guaruja・Sofitel Jequitimar Hotel
日本の出席者：龍岡会長、大谷理事、桑野理事、
３．IGS 本部への会員名簿の提出
４．2010 年 12 月 2,3 日　第 25 回ジオシンセティックスシンポジウム
５．電子ジャーナル化：
論文集：2007～は J-Stage で公開中
2010 年分は 2011 年 1 月 17 日に公開。12 月 1 日までは会員限定公開。
2006 年以前は Journal@rchive にて完全オープン公開中
技術情報：2008 年以前は Journal@rchive に掲載予定（2011 年 1 月に電子情報化作業開始）
2009 年以降は J-Stage で公開するよう準備中。

３．刊行物の発行事業

１．国際ジオシンセティックス学会日本支部会員名簿
２．ジオシンセティックス技術情報（3 月，7 月，11 月号）
３．ジオシンセティックス論文集第２５巻

以上

ジオシンセティックス技術情報編集委員会 2010 年活動報告

（1）2010 年編集委員会活動報告内容

1) 第 1 回編集委員会（日時：平成 22 年 2 月 5 日(金)，場所：三井化学産資　8F 会議室）
- '10 編集体制の確認・検討・決定
- '10.3 月号の進捗状況の確認と未入稿原稿への対応，次号送り原稿の検討
- '10. 7 月号の特集以外の内容に関する検討
- '10. 7 月号の特集（第 9 回国際ジオシンセティックス会議（ブラジル会議））についてはメール審議
- 「ジオシンセティックス用語集」の完成報告と発送について（3/25 発送）

2) 第 2 回編集委員会（日時：平成 22 年 9 月 9 日(水)，場所：三井化学産資　8F 会議室）
- '10.7 月号の問題点と申し送り事項の検討
- '10.11 月号の目次案および編集工程の検討
- 編集方法の見直し
- 今後の編集方針についての検討（技術報文，今後の展望，IGS 本部情報の掲載など）
- 過去の技術情報誌の目次に関する整理（アーカイブ化）について
- ジオシンセティックス論文集の「事例報告」に関する行事委員会からの提案ついての検討
- 技術賞推薦候補，技術奨励賞推薦候補の技術報文の検討結果報告

3) 第 3 回編集委員会（日時：平成 22 年 11 月 2 日(火)，場所：三井化学産資　8F 会議室）
- '10.11 月号の進捗状況の確認と未入稿原稿への対応，次号送り原稿の検討
- '11. 3 月号の目次案および編集工程の検討
- '11. 7 月号の特集に関する検討
  特集「ジオシンセティックス補強土擁壁」（道路土工擁壁工指針／斜面安定工指針の改訂を踏まえて）
- '11 編集体制の検討および決定

4) ジオシンセティックス用語集の完成と IGS 日本支部会員への無料配布

（2）2010 年委員会設営費報告

内　訳	予算（円）	実績（円）	備　考
① 委員会経費			
・編集委員会	200,000		
		62,000	第 1 回編集委員会交通費
		68,000	第 2 回編集委員会交通費
		66,000	第 3 回編集委員会交通費
合　計	200,000	196,000	

ジオシンセティックス技術情報編集委員会 2011 年活動計画

（1）2011 年活動予定内容

＜全体の活動内容＞

定期発刊を心掛けるとともに，「技術報文」の投稿については，編集委員による情報収集のほか，シンポジウム掲載論文や他学協会の年次講演会を範疇に入れ，JC-JGS 技術賞候補論文および JC-JGS 技術奨励賞論文の対象に成り得るような質の高い「技術報文」の掘り起こしを積極的に行う予定である。

毎年，特集号として位置付けられる７月号については，道路土工擁壁工指針／斜面安定工指針が改訂されたことを踏まえ，**「ジオシンセティックス補強土擁壁」**をテーマとして技術報文を募集する予定である。

また，我が国におけるジオシンセティックス関連の規格・基準の整備の必要性が認識されつつあることから，ISO や ASTM で審議中の規格案に関する「審議情報」を積極的に掲載していくとともに，これまで同様，「修士，博士論文概要の紹介」などの掲載を引き続き行う。

＜具体的な活動内容＞

１．ジオシンセティックス技術情報の発行

ジオシンセティック技術情報は，従来通り年３回の発行とする。

（2010 年３月号，2010 年７月号，2010 年 11 月号）

２．編集委員会

編集委員会においては，ジオシンセティックス技術情報を滞り無く発行するための定例業務として，目次案の検討や原稿執筆状況の確認などを行うとともに，編集に際しての問題点の解決を行う。また，継続的な審議事項として，編集方針や内容分類の整理，技術情報誌のアーカイブ化，テーマ特集号の設定，新企画の検討など，読者のニーズに合うように check and review を積極的に行う。なお，５月の編集委員会では，2011 年度技術賞，技術奨励賞の受賞候補となる技術報文の推薦選考を行う予定である。

開催予定：５回程度（１月，５月，７月，９月，１１月を予定）

３．編集WG

編集WGにおいては，幹事会および編集委員会で決定した編集方針に基づくジオシンセティックス技術情報の実質的な編集作業として，原稿の内容確認などを行う。なお，今年度の編集WG分担は以下に示す通りである。また，編集WGは，基本的にはメールで作業を行う。

11 年３月号：主査　高橋委員，副査：内村委員，土橋委員
７月号：主査　西村委員，副査：荻迫委員，小浪委員
11 月号：主査　原田委員，副査：高橋委員，桝尾委員

（2）2011 年設営費計画

委員会設営費については，例年通りの交通費として以下の予算案としたい。

内　訳	20 年度予算案（円）	備　考
① 委員会経費 ・編集委員会	200,000	委員会交通費 （73,000×2 回+18,000×3 回）
合　計	200,000	

行事委員会 2010 年活動報告

（1）2010 年活動報告

第２５回ジオシンセティックスシンポジウムを、１２月２～３日に、地盤工学会館で開催した。

２月　　会場、日時の決定、論文集投稿要項の改訂（論文の区分の新設、著作権の手続きの簡素化）
３月　　ジオシンセティックス技術情報、Web、メールでの発表論文募集への会告掲載
４月　　地盤工学会・繊維学会へのジオシンセティックスシンポジウム共催依頼、広報依頼
５月２４日　論文の申し込み締切（題目と概要）
７月３１日　本論文の提出締切
８月３０日　第１回行事委員会（論文査読結果のまとめなど）
１０月３０日　本論文の修正原稿提出締切
１２月　１日　シンポジウム プレイベント（フットサル大会：４９名）
１２月２～３日　第２５回ジオシンセティックスシンポジウム（地盤工学会館）
　参加者１２１名、一般発表(４１編)、特別講演(東京理科大学 龍岡文夫教授)、
　JC-IGS 論文賞・奨励賞・技術賞・技術奨励賞表彰式、懇親会４３名
１２月　３日　第２回行事委員会

（2）2010 年委員会設営費報告

内　訳	予　算	実　績	備　考
委員会設営費	50, 000	11, 770	
交通費	(20, 000)	(0)	
通信費・消耗品費等	(30, 000)	(11, 770)	会議費

（3）シンポジウム収支報告

内　訳	予　算	実　績	備　考
第２５回シンポジウム	－	-56, 848	
収入	520, 000	531, 500	
	(400, 000)	419, 000	シンポジウム参加費
	(100, 000)	78, 000	懇親会参加費
	(20, 000)	24, 500	プレイベント（フットサル）参加費
	－	0	論文集購入（現金０名）
	－	10, 000	請求書払い（２名）
支出	520, 000	588, 348	
	(0)	0	会場費・設営費
	(350, 000)	409, 710	論文集印刷費 200 部
	(10, 000)	11, 000	特別講演謝礼・交通費
	(30, 000)	2, 740	通信費・消耗品ほか
	(100, 000)	115, 398	懇親会費
	(30, 000)	49, 500	プレイベント（フットサル）経費

第25回ジオシンセティックスシンポジウム収支

	シンポ参加人数	収入額		懇親会参加人数	収入額
正会員	50	200,000	参加者	26	78,000
非会員	23	138,000			
招待	12	0	学生	6	0
優待	15	60,000	招待	11	0
学生	21	21,000			
小計	121	419,000	小計	43	78,000
				参加収入総計	497,000
			請求書払い	2	10,000
			計		507,000

行事委員会 2011 年活動計画

（1）2011 年活動予定内容

第２６回ジオシンセティックスシンポジウムは、１２月上旬または１１月下旬、室蘭で開催する。

1 月　　シンポジウム論文募集会告（技術情報）原稿提出
2 月　　地盤工学会、繊維学会へ共催依頼、技術情報誌、Web・地盤工学会誌・Web、メールなど広報
5 月　　論文賞、論文奨励賞 推薦
5 月 24 日　　シンポジウム投稿論文題目と概要の申込み締切
5 月下旬　　第１回行事委員会：論文応募状況の確認、概要審査、プログラム概要決定、論文審査員、査読要領・シンポジウム実施要領の検討、懇親会計画
7 月　1 日　　本論文提出締切、査読依頼
8 月 24 日　　査読結果報告締切
8 月下旬　　第 2 回行事委員会：プログラム詳細、査読結果取りまとめ、役割分担、論文賞・奨励賞推薦関係
8 月下旬　　査読結果返送
9～11 月　　技術情報誌、Web、メール、地盤工学会誌などにおける開催案内
11 月上旬　　招待状発送（支部顧問、特別会員）、修正済み原稿取りまとめ、論文集作成
12 月 1～2 日　　第 26 回ジオシンセティックスシンポジウム（予定会場：室蘭工業大学 大学会館）

（2）2011 年設営費計画

2011 年度の予算（案）

内　　訳	予　　算	備　　考
行事委員会設営費	100,000	
（内訳）	(50,000)	委員会交通費・事務局旅費ほか
	(50,000)	通信費・消耗品費等
第２６回シンポジウム	0	（室蘭）
（収入）	670,000	
	(450,000)	シンポジウム参加費
	(200,000)	懇親会参加費
	(20,000)	プレイベント参加費
（支出）	670,000	
	(0)	会場費・設営費
	(410,000)	論文集印刷費 200 部
	(50,000)	特別講演謝礼・交通費
	(30,000)	通信費・事務局旅費ほか
	(150,000)	懇親会費
	(30,000)	プレイベント経費

2011 年度　行事委員会名簿：

編集委員長　内村太郎（東京大学）
顧　　問　落合英俊（九州大学）
顧　　問　嘉門雅史（香川工業高等専門学校）
編集委員　金子賢治（八戸工業大学）
編集委員　河端俊典（神戸大学）
編集委員　熊谷浩二（八戸工業大学）
編集委員　小島謙一（(財)鉄道総合技術研究所）
編集委員　小竹　望（香川工業高等専門学校）
編集委員　中村　努（苫小牧高等工業専門学校）
編集委員　西形達明（関西大学）
編集委員　間　昭徳（三菱樹脂(株)）
編集委員　平川大貴（防衛大学校）
編集委員　峯岸邦夫（日本大学）
編集委員　安福規之（九州大学）
編集委員　吉田浩一（前田工織(株)）

以上

学生・教育委員会 2010 年 活動報告

（1）2010 年活動報告内容

1）委員会開催内容

第 1 回　学生・教育委員会
開催日：2010 年 3 月 29 日
会　場：飛島建設会議室
内　容：委員会運営方法について
見学会・入門セミナーの開催について

第 2 回　学生・教育委員会
開催日：2010 年 10 月 6 日
会　場：地盤工学会会議室
内　容：見学会実施に関する検討
入門セミナーの開催について（講師の人選）

第 3 回　学生・教育委員会
開催日：2010 年 12 月 16 日
会　場：日本大学理工学部 134 教室
内　容：入門セミナーの反省会

2）行事開催

第 12 回入門セミナー
開催日時：2010 年 12 月 16 日（木）
会　　場：日本大学理工学部 134 教室
内　　容：ジオシンセティックスの基礎知識（峯岸邦夫・日本大学）
最終処分場とジオシンセティックス（安藤彰宣・旭化成ジオテック）
参加人数：70 名（正会員：10 名、非会員：2 名、学生（会員・非会員）：58 名）

（2）2010 年委員会設営費報告

内　訳	予　算	実　績	備　考
委員会設営費			
会議費	36,000	31,000	委員交通費、食事代
入門セミナー経費※	40,000	19,200	学生アルバイト代、講師食事代
見学会経費	24,000	0	
合計	100,000	50,200	

※入門セミナーの講師料は本会計より支出されております。

学生・教育委員会 2011 年 活動計画

（1）2011 年活動予定内容

1）委員会開催
入門セミナー・見学会等の企画および技術資料の提供等に関して年 4 回程度の委員会を開催予定。

2）行事開催
第 13 回ジオシンセティックス入門セミナー
現場見学会

（2）2011 年設営費計画

内　　訳	予　　算
委員会設営費	
会議費	36,000
見学会経費	24,000
入門セミナー経費	40,000
合計	100,000

電子情報化委員会 2010 年活動報告

（1）2010 年活動報告内容

<主な活動内容>

・HP の更新、改良（ニュース、データーベースなど）
・論文集の公開、技術情報誌の電子化
・HP サーバーの検討
・その他

1. HP の更新、改良について

定期的なニュースや、学会からの情報などについては HP 担当を中心として、更新等を実施した。

2. 論文集の公開、技術情報誌の電子化

論文集：J－Stage においてジオシンセティクス論文集の公開を行っており、2010 年の論文集も 2011/1/4 から公開を開始している。また、2007 年以前の論文についても、本年から Journal@rchive において掲載をしている（下記 URL 参照）。

【日本語】http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/jnltop_ja.php?cdjournal=jcigsjournal1986
【英語】http://www.journalarchive.jst.go.jp/english/jnltop_en.php?cdjournal=jcigsjournal1986

技術情報誌：編集委員会と共同で電子化を進めている。Journal@rchive において昨年度すでに掲載は確定していたものの、事業仕分けなどの関係から掲載時期については未定であったが、2011/01 からデータ作成を開始する旨の連絡があった。これに伴い、準備作業を実施中であり、あわせて著作権許諾のお願いについても HP 等で実施している。

3. HP サーバーの検討

現在、IGS 日本支部の HP は、国立情報学研究所（NII）の「学協会情報発信サービスにおけるホームページ構築・提供支援」事業のもと NII のサーバーを用いて運営している。

しかし、 ホームページ構築・提供支援サービスの事業が、平成 23 年度で終了するため、Web サーバーの変更の必要性が生じ、新規サーバーの検討を開始した。

4. その他

HP の内容の充実を図るべく、掲載内容について検討を進めた。特に、IGS 日本支部の活動内容について充実を図るよう検討を進めている。

（2）2010 年委員会設営費報告

予算：100,000 円
支出：80,000 円（HP メンテナンス作業等）
残金：20,000 円（返金）

電子情報化委員会 2011 年活動計画

（1）2011 年活動予定内容

<主な活動内容>

・HP の更新、改良（ニュース、データーベースなど）
・技術情報誌の公開
・HP サーバーの検討
・その他

1. HP の更新、改良について

定期的なニュースや、学会からの情報などをできるだけ早く掲載を行っていく。各技術委員会等と連携をとり、有用なデータベースの構築などを検討し、推進していく。

2. 技術情報誌の公開

公開作業を順次行っていく予定である。

3. HP サーバーの検討

新規 HP サーバーについて、効率性、経済性、サービスなどを踏まえたうえで、検討を進める。2011 年内に契

約、データ移行作業を行い、試行期間を経て、2012 年早期に運用を開始する予定である。

4. その他

各委員会などの連携を深め、IGS 日本支部の活動内容を紹介していく

（2）2011 年設営費計画

予算：250,000 円

(HP のメンテナンス、技術情報誌公開作業（Journal@rchive への登録)、会議費、交通費、新規 HP の契約、データ移行作業)

ジオシンセティックス試験法委員会 2010 年活動報告

（1）試験法委員会の活動概要

・地盤工学会基準部に平成 18 年度に新設された室内試験規格・基準検討委員会内のジオシンセティックス WG と連携して作業を進めている。

・2010 年度は，2009 年度にジオシンセティックス関連５基準の策定および解説の執筆が終了し，「地盤材料試験の方法と解説，第 9 編ジオシンセティックス」として刊行されたことから，現行のジオシンセティックスに関する 2 規格(JIS)の改訂について検討した。

1) 第 1 回試験法委員会（平成 22 年 10 月 22 日(金)，JGS 会館 3F 会議室）

・委員の退任と交代

・現行 JIS の改訂作業について（JIS が「L」番号であるため「A」番号に変更することを，今後，検討）

・コーポレートメンバー委員会との意見交換会の開催計画について

→国内のジオシンセティックス試験法に関して，今後の基準のあり方についての議論を深めるため。

2) 第 2 回試験法委員会（平成 22 年 12 月 21 日(火)，三井化学産資 8F 会議室）

・IGS 日本支部コーポレートメンバー委員会との合同委員会

・試験法委員会の活動概要について

・ジオシンセティックスに関する ISO や ASTM の動向とモニタリングの必要性

・今後の我が国の戦略に関する討論

→国際化，試験方法・設計・施工をパッケージにした規格案の策定，ISO の翻訳 JIS の策定など

（2）2010 年委員会設営費報告

内　訳	予算（円）	実績（円）	備　考
① 委員会経費			
・試験法委員会	200,000		
		64,000	第 1 回試験法委員会交通費
		122,000	第 2 回試験法委員会交通費
合　計	200,000	186,000	

ジオシンセティックス試験法委員会 2011 年活動計画

（1）活動計画

1) ISO で制定されている国際規格を参照しながら，今後，我が国において必要なジオシンセティックス基準を検討するとともに，土研センター，国内メーカー及び関連協会等と意見交換しながら，基準化すべき試験法を抽出する。

2) 基準化されていないジオシンセティックス試験方法や ISO 会議に関する国内の要望を収集するために，継続的に，IGS 日本支部コーポレートメンバー委員会との意見交換会を実施する予定である。

3) ジオシンセティックスに関する JIS の 2 規格の見直しについて検討を行う予定である。

（2）2011 年設営費計画

委員会を 2 回開催する予定であることから，以下の予算案としたい。

内　訳	2011 年度予算案 (円)	備　考
① 委員会経費		
・試験法委員会	200,000	委員会交通費 (100,000×2 回) 熊本あるいは苫小牧－東京(２回程度)
合　計	200,000	

表彰委員会 2010 年活動報告

（1）2010 年表彰委員会活動報告内容

・2010 年度 IGS 日本支部賞の選考

2010 年度 IGS 日本支部賞は下記の各賞について表彰規定により、表彰委員会にて選考した。

2010 年 12 月 2 日のシンポジウム開催時に表彰を行った。以下に表彰者を示す。

①JC-IGS 論文賞

（ジオシンセティックスに関する学術および技術の進展に顕著な貢献をした論文の著者）

木幡行宏・島谷文卓・弘中淳市・平井貴雄

「ジオテキスタイルの見かけの開孔径試験方法に関する考察」

原隆史・辻慎一朗・八嶋厚・竜田尚希

「杭を有する補強土壁の動的遠心模型実験」

②JC-IGS 論文奨励賞

（ジオシンセティックスに関する研究を行い、将来、学術および技術の進展に貢献が期待される論文の著者）

錦織大樹・相馬亮一・有田貴司・坂井優・田村知宏・相澤宏幸

「橋台背面ジオシンセティックス補強盛土のセメント改良によるインテグラルブリッジの安定化」

③JC-IGS 技術賞（ジオシンセティックスに関する技術の進展に顕著な貢献をした、個人・グループ）

宮田 喜壽・R.J.Bathurst

「ジオシンセティックス補強土壁の補強力推定法－ K-stiffness method の概要と計算例 －」

④JC-IGS 技術奨励賞

（ジオシンセティックスに関する技術的研究を行い、将来、学術および技術の進展に貢献が期待される論文の著者）

岡村昭彦・杉本昌由

「エコチューブの脱水量予測と施工例」

（2）2010 年表彰委員会設営費報告

2010 年設営費	150,000 円
賞状費用	8,423 円
盾費用	67,200 円
計	75,623 円

表彰委員会 2011 年活動計画

（1）2011 年表彰委員会活動予定内容

・2011 年度 IGS 日本支部賞の選考，報告など

・IGS 賞本部賞選考などのお手伝い

（2）2011 年表彰委員会予算案

盾、賞状作成費として　150,000 円

以上

コーポレートメンバー委員会 2010 年活動報告

（1）2010 年活動報告内容

- 『ジオシンセティックス技術情報』コーポレートメンバーのページを各社で掲載した。
  - ・3 月号　クラレ
  - ・7 月号　東急建設，芦森工業，日本スパンボンド土木会
  - ・11 月号　高耐圧ポリエチレン管協会，東京インキ
- IGS 本部会長・理事選挙の電子投票の呼びかけ，全コーポレートメンバーが投票できるようにすること。
- 委員会の開催

  12 月 21 日：試験法委員会との合同委員会

  「ジオシンセティックスに係る国際基準の国内導入についての動向と意見交換」

  三井化学産資（株）会議室にて，三木支部長／木幡試験法委員会委員長ほか 12 名の参加で開催
- コーポレート連絡

  ① 電子情報化委員会：

  2 月１６日【連絡】ジオシンセティックス論文集　第 24 巻のＷＥＢ掲載のお知らせ

  ② IGS 本部：

  6 月４日　【連絡】IGS Press Release: 14th IGS Council & Secretariat RFP

（2）2010 年委員会設営費報告

委員会設営費　：　収入　50,000 円
支出　39,300 円　(12 月 21 日合同委員会時の夕食代)
残金　10,700 円

コーポレートメンバー委員会 2011 年活動計画

（1）2011 年活動予定内容

- 『ジオシンセティックス技術情報』コーポレートメンバーのページを各社で掲載する。
- コーポレートメンバー会議の開催
- 各委員会からの連絡事項への協力
- ＩＧＳ本部名簿のメンテナンス
- その他／会社単位での入会勧誘活動を行う。

（2）2011 年委員会設営費計画

委員会設営費　：　収入　50,000 円

※）会議費等で使用予定

災害復旧技術委員会 2010 年活動報告

（1）2010 年災害復旧技術委員会活動報告内容

委員長：桑野二郎

1）降雨 WG（安福規之主査）、地震 WG（若井明彦主査）に分かれて活動していたが、両者の成果を合わせて報告書を作成。主にメールで意見交換を行なった。

報告書の原案を作成し、現在、委員長、両 WG 主査で内容の詰めを行っている。

2）2010 年災害復旧技術委員会設営費報告

収入　¥200,000-（2010 年度委員会予算）

支出　　¥0-（交通費、資料送料）

災害復旧技術委員会 2011 年活動計画

委員会活動は 2010 年度をもって終了した。

ジオテキスタイル技術委員会(第Ⅴステージ)2010 年活動報告

（1）ジオテキスタイル技術委員会 2010 年活動報告

ジオテキスタイル技術委員会では、第Ⅳステージで取り組んだジオグリッド補強土壁のＬＣＣ（ライフサイクルコスト）に関する検討結果を報告書として取りまとめた。その成果は、4 月に開催した成果報告会、および 12 月の IGS シンポジウムにて報告した。

また、第Ⅴステージをジオグリッド補強土壁構造物の環境性能に関する検討委員会として開始した。本ステージは、ジオグリッド補強土壁構造物の環境性能に関して、①環境負荷（LCCO2）の評価法、②既設構造物の健全度評価法と維持管理技術、③ジオグリッドの製造・廃棄における環境負荷低減化について検討することとした。

2010 年は 2 回の全体委員会と成果報告会を実施した。その議事は下記の通りである。

○ 第Ⅳステージ第 6 回委員会：平成 22 年 2 月 5 日、14：00-17：00、地盤工学会中会議室

1) 報告書の執筆状況について
2) 成果報告会の開催について

○ 第Ⅳステージ成果報告会：平成 22 年 4 月 23 日、14：00-17：00、文京シビックセンター

1) ジオグリッド補強土壁のライフサイクルコスト評価法とその応用に関する研究コロキアム
2) 地盤構造物の限界状態設計法に関するワークショップ

○ 第Ⅴステージ第 1 回全体委員会：平成 22 年 7 月 30 日、14:00-17:00、地盤工学会中会議室

1) 環境関連の国内・海外動向について
2) 補強土壁の維持管理について
3) 活動方針について

（2）2010 年委員会設営費報告

2010 年 委員会設営費報告（自 2010 年 1 月 1 日 ～至 2010 年 12 月 31 日）

科　目	予 算	決 算	備　　考
1. 委員交通費	¥180, 000-	¥146, 000-	委員会交通費（2/5, 4/23, 7/30）
2. 通信・消耗品費	¥20, 000-	¥38, 600-	会場費他（4/23）
合　計	¥200, 000-	¥184, 600-	

ジオテキスタイル技術委員会(第Ⅴステージ)2011 年活動計画

（1）2011 年活動計画

ジオテキスタイル技術委員会第Ⅴステージ（2010 年 1 月～2012 年 12 月）では、ジオグリッド補強土壁の環境負荷低減効果の評価法の確立を目標に全体委員会を年２回、WGを年５回開催する予定である。

委員会組織

委員長：　宮田　喜壽（防衛大学校　建設環境工学科）

委　員：　10 名

（2）2011 年設営費計画

2011 年度 委員会予算（自 2011 年 1 月 1 日 ～至 2011 年 12 月 31 日）

科　目	予 算	備　考
1. 委員交通費	¥180, 000-	全体委員会：¥40, 000（1 回）×2 回=¥80, 000- WG：¥20, 000（1 回）×5 回=¥100, 000-
2. 通信・消耗品費	¥20, 000-	郵便，通信，資料コピー，封筒等
合計	¥200, 000-	

ジオメンブレン技術委員会(第Ⅴステージ)2010 年活動報告

（1）ジオメンブレン技術委員会 2010 年活動報告

前ステージのジオメンブレン技術委員会では、廃棄物埋立地を中心に、遮水シート、保護マット等のジオシンセティクス製品を如何に適正に使用し、またその長期耐久性について調査研究してきた。

第Ⅴステージでは、最終処分場の新設・リニューアル、不適正処分場の適正化、土壌汚染対策における新しい遮水料、施工技術、維持管理技術の提案をテーマに取り組んできた。具体的には、欧米で用いられている液状遮水材に着眼し調査を続けている。廃棄物埋立地や土壌汚染対策に適した液状遮水材料として、ポリウレアー、ポリウレタン、リキッドブーツ等が対象になることが明らかとなった。

（2）2010 年委員会設営費報告

委員会開催、個別検討会実施

2010 年 委員会設営費報告（自 2010 年 1 月 1 日 ～至 2010 年 12 月 31 日）

科　目	予 算	決 算	備　考
1. 委員交通費	¥180, 000-	¥45, 000-	¥45, 000（1 回）×1 回=¥45, 000-
2. 通信・消耗品費	¥20, 000-	¥0-	郵便，通信，資料コピー，封筒等
合計	¥200, 000-	¥45, 000-	

ジオメンブレン技術委員会(第Ⅴステージ)2011 年活動計画

（1）2011 年活動計画

本年度は

・各種液状遮水材料の特性、施工性、耐久性の調査、必要によっては試験

・各事象への適用検討

なお、委員会組織に不確定要素があるので再編成をする

委員長　　：　島 岡　隆 行（九州大学大学院工学研究院）

副委員長　：　勝 見　武　（京都大学大学院地球環境学堂）

（2）2011 年設営費計画

2011 年度 委員会予算（自 2011 年 1 月 1 日 ～至 2011 年 12 月 31 日）

科　目	予 算	備　考
1. 委員交通費	¥180, 000-	¥45, 000（1 回）×4 回=¥180, 000-
2. 通信・消耗品費	¥20, 000-	郵便，通信，資料コピー，封筒等
合計	¥200, 000-	

新技術委員会 2010 年活動報告

（1）2010 年活動報告内容

新技術委員会では 2010 年の活動として、

①ジオシンセティックスの新技術情報の調査・研究や新技術委員会の活性化を目的として、委員会として１つテーマを模索し、研究・実験を行うために外部資金の獲得する活動

②ジオシンセティックスの新技術に関するデータベースの作成

③新技術関連の講演会の開催

を計画した。

①については、研究テーマ選定の結果、2010 年は研究テーマとして「最終処分場の二重遮水シート工における水理特性に関する研究」を選定し、前田記念工学振興財団の平成 23 年度研究助成に申請を行った。選考の結果、残念ながら不採択であった。

②については、早急にデータベースの学会ホームページでの開示に向け調整を行った。

③については、講演会講師の選定がなかなか決まらず、未開催のまま現在に至っている。

新技術委員会の 2010 年活動内容を下表に示す。

	日時	場所	議事内容	備考
第１回	平成 22 年 5 月 28 日	(社)地盤工学会	・2010 年活動方針 ・データベース進捗状況 ・新技術情報の調査・研究について ・2010 年スケジュール	
第２回	平成 22 年 7 月 30 日	(社)地盤工学会	・データベース進捗状況 ・新技術情報の調査・研究について ・今後の予定	
第３回	平成 22 年 10 月 1 日	明星大学	・平成 23 年度前田記念工学振興財団申請の検討と承認 ・ネッキング現象を抑えた引張り試験の見学	
第４回	平成 23 年 1 月 21 日	(社)地盤工学会	・平成 23 年度前田記念工学振興財団申請の結果報告 ・2011 年の活動方針	

（2）2010 年委員会設営費報告

2010 年の設営費報告を以下に示す。

収入	支出	残額	支出項目	備考
150,000	0	150,000	---	

新技術委員会 2011 年活動計画

（1）2011 年活動予定内容

新技術委員会では 2011 年も 2010 年同様の活動を継続する。

①ジオシンセティックスの新技術情報の調査・研究や新技術委員会の活性化を目的として、研究・実験を行うために外部資金の獲得する活動

②ジオシンセティックスの新技術に関するデータベースの作成

③新技術関連の講演会の開催

（2）2011 年設営費計画

2011 年の設営費計画を以下に示す。

交通費	会議費	講演会費	計	備考
50,000	50,000	50,000	150,000	

財務委員会２０１０年報告

（１）　２０１０年度会計決算　（別紙　参照）

収入は、会費等収入が予算より９０万円ほどの減少となった。これは、会費支払い督促を行わなかったためと思われる。全体では１００万円ほどの減少となった。

支出は、全科目とも予算より少なくなり、全体では１００万円ほどの減少となった。

繰入れ費を除いた収入実績は 6,566,898 円、支出実績は 7,391,553 円となり、824,655 円の支出オーバーとなった。

（２）　２０１１年度会計予算　（別紙　参照）

収入は、会員数の減少により昨年度より４０万円弱の減少予算の　7,164,700 円とした。

支出は、昨年度より１８万円弱の減少予算の 9,024,800 円とした。

したがって、今年度の予算は 1,860,100 円のマイナス予算である。

２０１２年度への繰越金は 18,290,109 円となった。

資料2－2

IGS日本支部　2010年度会計決算

期間：2010年1月1日～2010年12月31日

平成23年2月2日

収入の部

科　目		2010年予算	2010年実績	備　考
1. 会費等収入				
①2010年度分	法人会員	4,560,000	4,320,000	18社×240,000円/社
	個人会員	1,760,000	1,128,000	141名×8,000円/人
	学生会員	20,000	5,000	5名×1,000円/人
②本部還付金	法人会員分	100,000	89,570	20社×50＄　(89.57円/$)
	(小計)	6,440,000	5,542,570	
2. 講習会・出版等収入				
	シンポジウム	520,000	547,500	懇親会収入+フットサル参加費
	講習会，見学会他	50,000	6,000	入門セミナー
	書籍，ビデオ等販売	100,000	3,000	
	書籍印税	0		
	(小計)	670,000	556,500	
3. 広告等収入				
	技術情報誌広告	450,000	464,000	3月号、7月号、11月号
	(小計)	450,000	464,000	
4. 受取り利息等				
	受取り利息	10,000	3,828	
	その他	0	0	
	(小計)	10,000	3,828	
(2010年度　収入合計)		7,570,000	6,566,898	
5. 繰越し金				
	繰越し金	20,974,864	20,974,864	2009年度繰越金
	(小計)	20,974,864	20,974,864	
(2010年度　収入総合計)		**28,544,864**	**27,541,762**	

支出の部

平成23年2月2日

科　目	2010年予算	2010年実績	担当委員会・備考
1. 本部国際学会費支出			担当:事務局
法人会員	1,710,000	1,791,400	20社×1000＄/社×89.57円/＄
個人会員	594,000	644,904	240名×30＄/名×89．57円/＄
学生会員	0	0	20名×0円/名
(小計)	2,304,000	2,436,304	
2. 講習会・出版等支出			
シンポジウム	520,000	588,348	担当:行事委員会
講習会・見学会補助費	100,000	20,000	入門セミナー講師謝礼
用語集出版費	50,000		担当:編集委員会(繰り越し)
税金、原稿料等	50,000		税金,原稿料,ｱﾙﾊﾞｲﾄ代
(小計)	720,000	608,348	
3. 技術情報発行費			担当:編集委員会,(名簿:事務局)
技術情報誌印刷製本費	1,550,000	1,093,050	140万(情報誌)＋15万(名簿作成費)
編集補助作業,原稿料他	50,000	20,000	アルバイト代、原稿料
発送,連絡費	250,000	228,360	3月号、7月号、11月号発送費用
(小計)	1,850,000	1,341,410	
4. 委員会経費			担当:各委員長
国際連絡委員会	1,000,000	765,510	ブラジル会議、理事会派遣費
コーポレート委員会	50,000	39,300	
編集委員会	200,000	196,000	技術情報誌発行別
行事委員会	50,000	11,770	シンポジウム別
表彰委員会	150,000	75,623	委員会費5万+盾,賞状作製費10万
技術委員会	0	0	
ジオテキスタイル技術委員会	200,000	184,600	
ジオメンブレン技術委員会	200,000	45,000	
新技術委員会	150,000	0	
ジオシンセティックス試験法委員会	200,000	186,000	
学生教育委員会	100,000	50,200	見学会,入門セミナー
電子情報委員会	100,000	80,000	HP更新・改良
財務委員会	0	0	
技術普及委員会	0	0	
災害復旧技術委員会	200,000	0	
(小計)	2,600,000	1,634,003	
5. 事務局経費,その他			担当:事務局
総会	60,000	74,721	総会+懇親会費
地盤工学会謝礼	350,000	300,000	地盤工学会謝礼(30万円)+会議室使用費・コピー代(5万円)
事務局費	200,000	200,000	埼玉大学コピー代その他(08,09年分)
通信費	80,000	61,930	
消耗品費	200,000	10,152	
傭人費	750,000	690,600	事務局傭人費
幹事会	40,000	0	会議費,幹事交通費、通信費資料購入など
その他	50,000	34,085	事務局交通費,慶弔費等、送金費、謝金
(小計)	1,730,000	1,371,488	
(2010年度　支出合計)	9,204,000	7,391,553	
6. 予備費・繰入れ費			
2010年から2011年への繰越金	19,340,864	20,150,209	2011年度への繰越金
(2010年度　支出総合計)	**28,544,864**	**27,541,762**	

IGS日本支部　2011年度会計予算

期間:2011年1月1日～2011年12月31日

平成23年2月2日

収入の部

科　目		2011年予算	備　考
1. 会費等収入			
①2011年度分	法人会員	4,320,000	18社×240,000円/社
	個人会員	1,600,000	200名×8,000円/人
	学生会員	20,000	20名×1,000円/人
②本部還付金	法人会員分	74,700	18社×50＄　(83円/$)
	(小計)	6,014,700	
2. 講習会・出版等収入			
	シンポジウム	670,000	参加費＋懇親会収入(フットサル参加費含む)
	講習会, 見学会他	10,000	参加費
	書籍, ビデオ等販売	10,000	
	書籍印税	0	
	(小計)	690,000	
3. 広告等収入			
	技術情報誌広告	450,000	3月号、7月号、11月号
	(小計)	450,000	
4. 受取り利息等			
	受取り利息	10,000	
	その他	0	
	(小計)	10,000	
	(収入合計)	7,164,700	
5. 繰越し金			
	繰越し金	20,150,209	2010年から2011年への繰越金
	(小計)	20,150,209	
	(収入総合計)	**27,314,909**	

支出の部

平成23年2月2日

科　目	2011年予算	担当委員会・備考
1. 本部国際学会費支出		担当:事務局
法人会員	1,577,000	19社×1000＄/社×83円/＄
個人会員	547,800	220名×30＄/名×83円/＄（240名　08年末）
学生会員	0	20名×0円/名
(小計)	2,124,800	
2. 講習会・出版等支出		
シンポジウム	670,000	担当:行事委員会
講習会・見学会補助費	100,000	
税金、原稿料等	50,000	税金,原稿料,ｱﾙﾊﾞｲﾄ代
(小計)	820,000	
3. 技術情報発行費		担当:編集委員会,（名簿:事務局）
技術情報誌印刷製本費	1,550,000	140万（情報誌）＋15万（名簿作成費）
編集補助作業，原稿料他	50,000	アルバイト代、原稿料
発送，連絡費	250,000	3月号、7月号、11月号発送費用
(小計)	1,850,000	
4. 委員会経費		担当:各委員長
国際連絡委員会	1,000,000	理事会派遣費
コーポレート委員会	50,000	
編集委員会	200,000	技術情報誌発行別
行事委員会	100,000	シンポジウム別
表彰委員会	150,000	委員会費5万+盾，賞状作製費10万
技術委員会	0	
ジオテキスタイル技術委員会	200,000	
ジオメンブレン技術委員会	200,000	
新技術委員会	150,000	
ジオシンセティックス試験法委員会	200,000	
学生教育委員会	100,000	見学会，入門セミナー
電子情報委員会	250,000	新規HPの契約、データ移行作業
財務委員会	0	
技術普及委員会	0	
(小計)	2,600,000	
5. 事務局経費,その他		担当:事務局
総会	60,000	総会+懇親会費
地盤工学会謝礼	350,000	地盤工学会謝礼(30万円)+会議室使用費・コピー代(5万円)
事務局費	100,000	埼玉大学コピー代その他（2011年分）
通信費	80,000	
消耗品費	200,000	
傭人費	750,000	事務局傭人費
幹事会	40,000	会議費，幹事交通費、通信費資料購入など
その他	50,000	事務局交通費，慶弔費等、送金費、謝金
(小計)	1,630,000	
(支出合計)	9,024,800	
6. 予備費・繰入れ費		
2011年から2012年への繰越金	18,290,109	
(支出総合計)	27,314,909	

監 査 報 告 書

国際ジオシンセティックス学会日本支部の2010年一般会計について帳簿・証票・書類等を検証の結果、適正かつ正確であることをご報告申し上げます。

平成23年2月2日

会計監事 間 昭徳

署名 間 昭徳 印

会計監事 石川 雅洋

署名 石川 雅洋 印

ＩＧＳ日本支部　２０１１年度　役員名簿

２０１１年2月2日

支部長	三木　博史	(三木地盤環境工学研究所)
副支部長	桑野　二郎	(埼玉大学)
幹事長	平井　貴雄	(三井化学産資)
副幹事長	*宮田　喜壽	(防衛大学校)
副幹事長	*横田　善弘	(前田工織)
会計･幹事	伊藤　雅夫	(前田工織)
幹事	*今泉　繁良	(宇都宮大学)
幹事	*内村　太郎	(東京大学)
幹事	大谷　順	(熊本大学)
幹事	#岡村　昭彦	(芦森工業)
幹事	*鎌尾　彰司	(日本大学)
幹事	嘉門　雅史	(香川江東専門学校)
幹事	*清川　伸夫	(東京インキ)
幹事	熊谷　浩二	(八戸工業大)
幹事	*小島　謙一	(鉄道総合技術研究所)
幹事	*古関　潤一	(東京大学)
幹事	木幡　行宏	(室蘭工業大学)
幹事	島岡　隆行	(九州大学)
幹事	*龍岡　文夫	(東京理科大学)
幹事	*矢島　寿一	(明星大学)
幹事	*桝尾　孝之	(太陽工業)
幹事	満尾　淳	(東急建設)
幹事	峯岸　邦夫	(日本大学)
幹事	*毛利　栄征	(農村工学研究所)
監事	*間　昭徳	(三菱樹脂)
監事	#山根　直樹	(ユニチカ)
事務局	伊集院紀子	(IGS 日本支部事務局)

支部顧問	赤木　俊允	(東洋大学名誉教授)
支部顧問	岩崎　高明	(エス・エヌ・テーエンジニア)
支部顧問	田中　茂	(神戸大学名誉教授、(財) 建設工学研究所)
支部顧問	福岡　正巳	(土木研究センター)
支部顧問	山内　豊聡	(九州大学名誉教授)

*再任、　#新任